

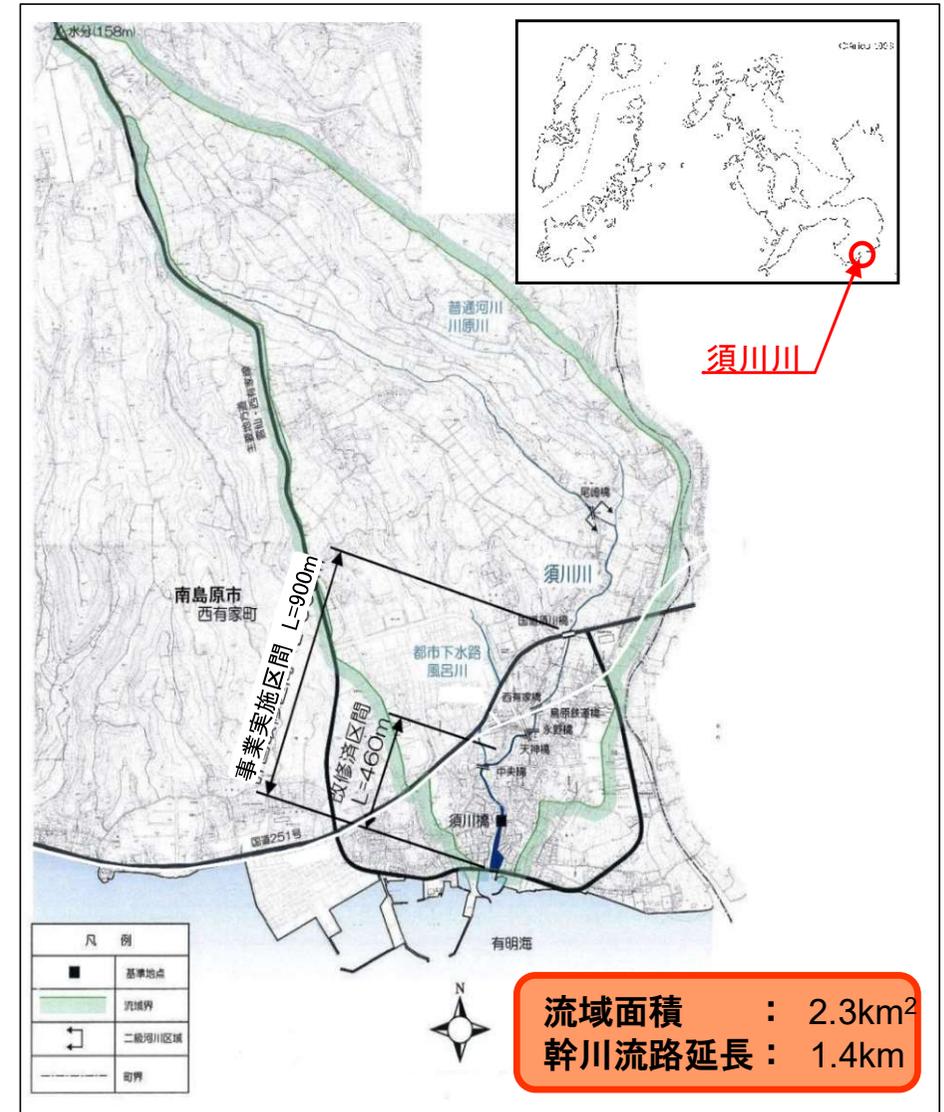
# 令和7年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

## 再評価対象事業

河川-1 総合流域防災事業  
須川川

事業主体 長崎県

再評価  
の理由 再評価後5年経過  
(事業費・工期)



# 1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
第1回審議 (H10年度)	事業採択後 10年経過	S53	H19	18.5	2.96	改修延長 L=1,300m 河道拡幅、河床掘削、護岸整備、 橋梁架替等
第2回審議 (H15年度)	再評価後 5年経過 (事業費・工期)	S53	H21	22.0	6.79	【前回評価からの変更概要】 用地取得手続き難航による工期延長 軟弱地盤対策の増による事業費増
報告 (H17年度)	整備計画策定	S53	H36	22.0	2.50	【前回評価からの変更概要】 整備計画策定の報告 整備計画に基づく事業期間の報告 改修延長の見直し (L=900m)
第3回審議 (H22年度)	再評価後 5年経過	S53	H36	22.0	2.35	
第4回審議 (H27年度)	再評価後 5年経過	S53	H36	22.0	2.37	
第5回審議 (R2年度)	再評価後 5年経過 (工期)	S53	R12	22.0	1.74	【前回評価からの変更概要】 用地取得手続き難航による工期延長
第6回審議 (R7年度)	再評価後 5年経過 (事業費・工期)	S53	R18	26.0	2.28	【前回評価からの変更概要】 用地取得手続き難航による工期延長 労務費・資材単価増による事業費増額

# 2. 目的・事業概要・これまでの経緯

## ◆目的

・須川川の総合流域防災事業は、河口から上里の集落地区にいたる間を現川の河道拡幅、河床掘削、護岸の整備を行い、洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止することを目的としている。

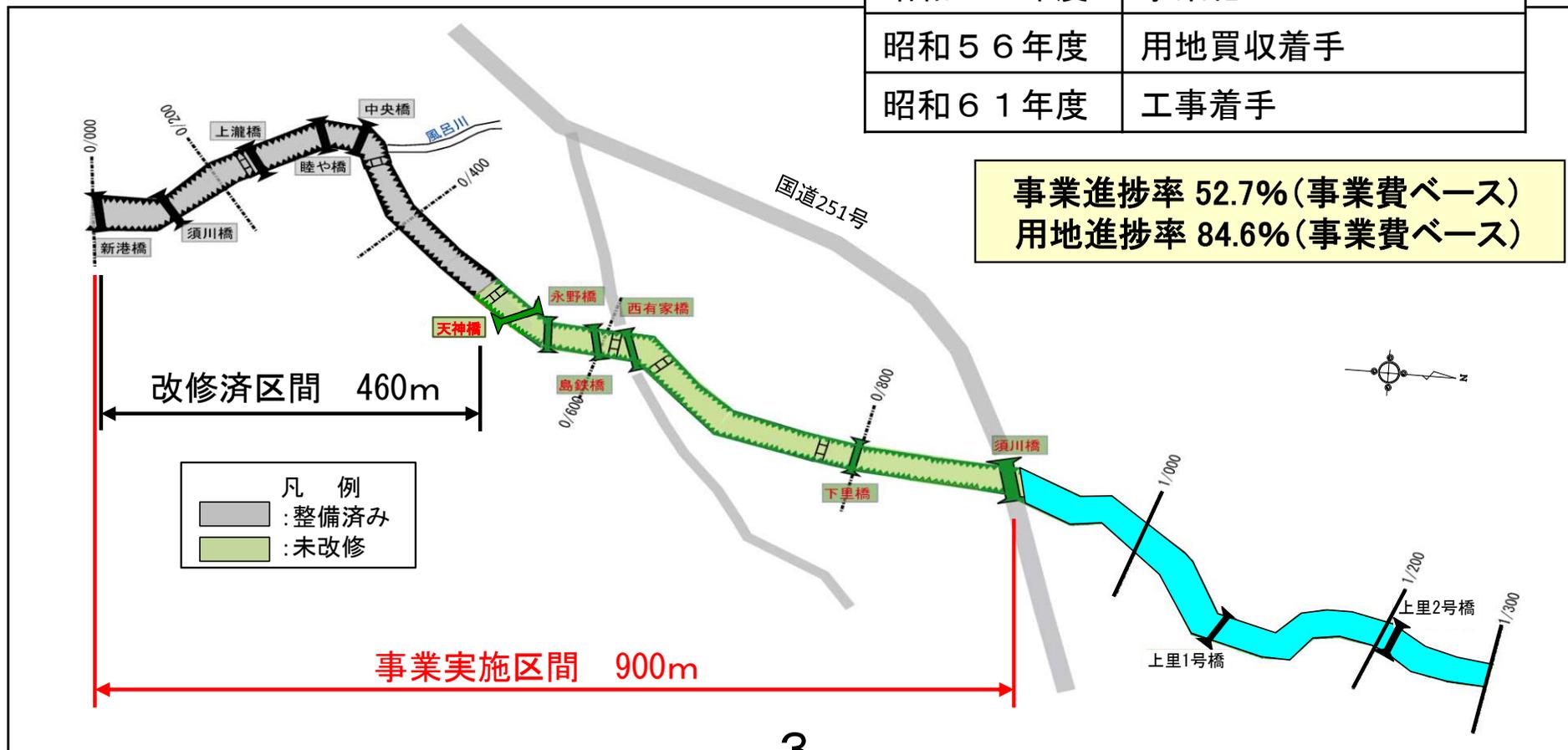
## ◆事業概要

工事延長	L=900m
整備内容	河道拡幅、河床掘削、護岸整備 橋梁架替

## ▼事業経過

昭和53年度	事業化
昭和56年度	用地買収着手
昭和61年度	工事着手

事業進捗率 52.7% (事業費ベース)  
用地進捗率 84.6% (事業費ベース)



### 3. 事業の効果・必要性

#### <河川の氾濫防止>

想定氾濫区域内は、住宅地及び事業所が多くあり、上流に農地が存在している。

#### <過去の被災状況>

須川川周辺は、過去に何度も家屋及び農地が浸水被害に見舞われており、河川改修による事業効果が期待される。

浸水状況 (昭和47年7月16日洪水)



発生年月	浸水戸数	浸水面積	時間最大雨量
昭和47年7月16日	15戸(床上) 35戸(床下)	16.8 ha	103.5mm (雲仙岳測候所)

## 4. 事業の進捗状況

- ・ 河口から天神橋下流1号落差工付近までの約460m間について、河川改修が完了している。



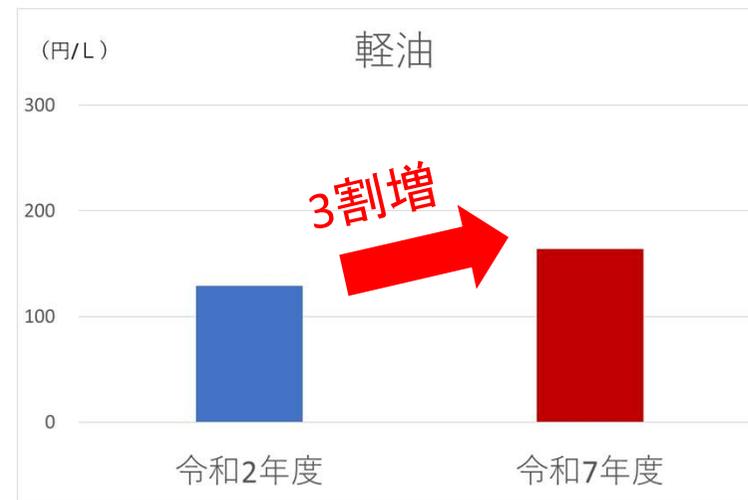
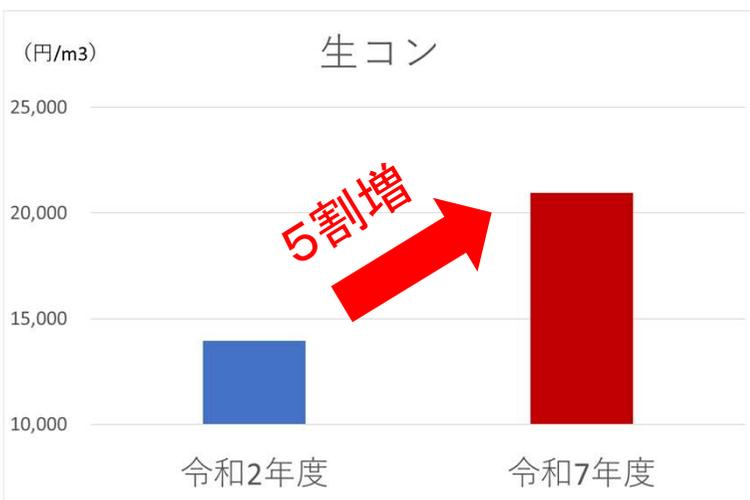
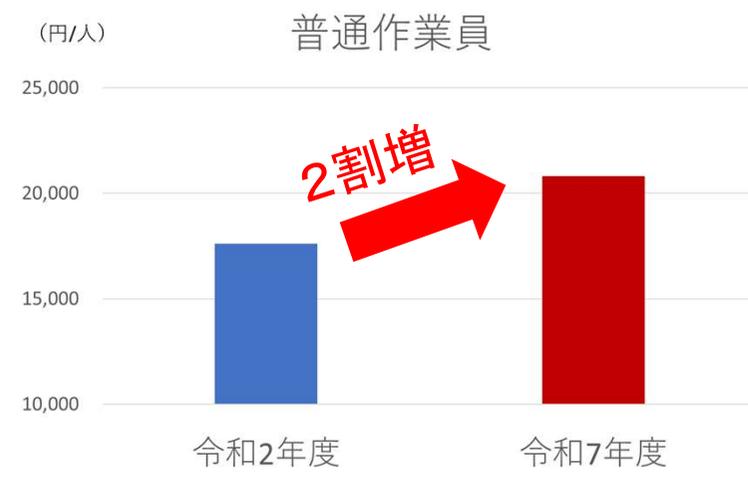
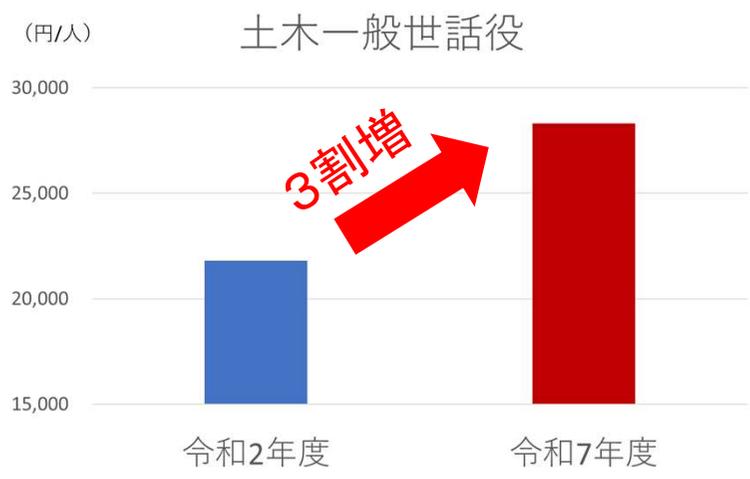
## 4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)



事業費増の内容	増額	主な増額理由
その他	4.0億円	資材費及び労務単価の上昇による増加
合計	4.0億円	

## 4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

事業費増の内容	増額	主な増額理由
その他	4.0億円	資材費及び労務単価の上昇による増加
合計	4.0億円	



# 4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

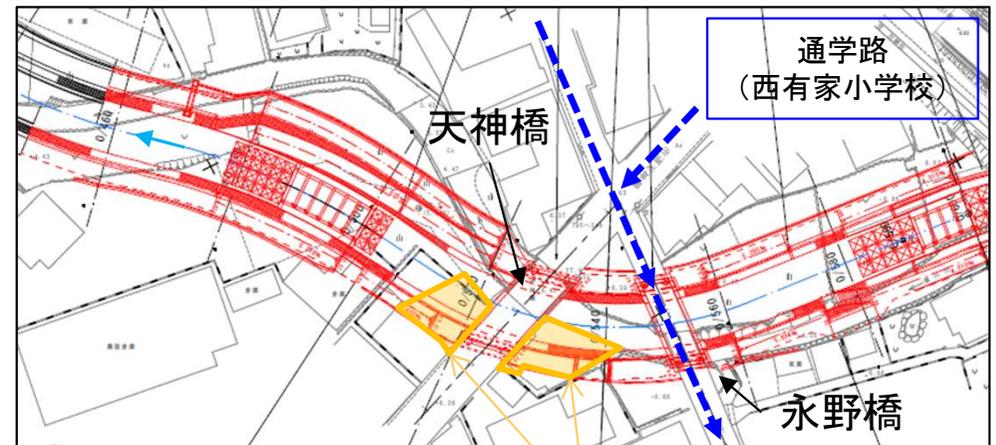
【完了工期】R12(前回)→R18(今回)

- ・天神橋の架替に伴う用地取得に時間を要したことにより、完了工期の延長を行う。

○前回

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
用地・地元調整											
天神橋・永野橋架替											
上流工区											

計画平面図



○今回

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
用地・地元調整																	
天神橋・永野橋架替																	
上流工区																	

事業期間6年延長

用地交渉  
(地権者2名)

用地交渉により4年延長

通学路の制限により  
2年延長

## 5. 社会経済情勢等の変化

- 想定氾濫区域内に大きな変化はないが、依然として住宅地及び事業所が多く存在していることから、住民から早期完成が望まれている。



## 6. 事業の投資効果

### ◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和2年度)	今回評価 (令和7年度)
残事業	2.57 = 20.3億円 / 7.9億円	3.76 = 39.1億円 / 10.4億円
全事業	1.74 = 100.8億円 / 57.9億円	2.28 = 182.7億円 / 80.1億円

#### 〔費用〕

- ・河川整備に要する事業費(工事費、用地費)、河川維持管理に要する費用

#### 〔便益〕

- ・家屋、家庭用品、事業所及び従業員等の直接被害、営業停止、応急対策費等の間接被害、公共土木施設被害に対する便益

#### 〔プラス要因〕

- ・治水経済調査マニュアルの改定(被害率の変更、農地・農業用施設の算定方法の変更)

#### 〔マイナス要因〕

- ・事業費の増加
- ・事業期間の延長

## 7. 対応方針(原案)

- ◆ 本事業は、「洪水による浸水被害の軽減をはかる」ことを目的とする事業である。
- ◆ 事業進捗は、事業費ベースで約53%であり、用地進捗率は約84%となっている。
- ◆ 地元の「南島原市」からも早期完成が望まれている。
- ◆ 事業効率化に大きく寄与する新たなコスト縮減は見込めず、また、代替代替案の可能性ない。
- ◆ 費用対効果が十分に見込まれる。

